

Title	編集後記
Sub Title	
Author	安藤, 広道(Andō, Hiromichi)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2020
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.7, No.1 (2020. 3) ,p.101- 101
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000007-0101">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000007-0101</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 編集後記

安藤広道

慶應義塾大学 DMC 研究センター副所長

文学部教授

DMC 紀要第 7 号をお届けします。

本年度のシンポジウムは、昨年度までのシリーズから心機一転、DMC が 2016 年度より取り組んでいる MOOCs をテーマとしました。会場をこれまでの日吉キャンパス西別館から日吉キャンパス来往舎に移したため、西別館から大型のリアスクリーンとプロジェクターを移設したり、複数のデモ用大型モニターと PC を設置するなどなど、これまでに経験のない苦労もありましたが、KMD 大川研究室の皆さんの全面的バックアップもあって全てが順調に進み、終わってみればたいへん実りの多いシンポジウムとなりました。

本号に収録したシンポジウムの記録をご覧になっていただければ、講演 6 本、2 回のパネルディスカッションという盛りだくさんの内容はもちろんのこと、熱気に満ちた当日の会場の様子的一端も、想像していただけるのではないかと考えております。

さて、突然世界を襲った新型ウィルスのパンデミックにより、現在、世界中の教育関係者がたいへんな苦労を強いられることになっています。この未曾有の事態を通じて、これまでの教育の在り方を見直す動きが加速することは間違いなく、そうしたなかで MOOCs への期待は、否応なしに高まっていくものと思われます。まだまだ日本では知名度も普及率も低い MOOCs ですが、本号に収録したシンポジウムの成果、そして DMC の取り組みが、今後の MOOCs 及び教育全体の可能性を拡げていくことに、少しでもつながっていけば望外の喜びです。

本年度から、グラフ理論がご専門の松本直己さんに、メンバーに加わっていただきました。DMC のもうひとつの大きなプロジェクトである MoSaIC も新たな展開が期待できそうです。今後とも DMC の活動にご注目ください。